仲原正治のまちある記

個性あるまちづくり、ムラおこし編

境港市の「水木しげるロード」の看板

目次：持続可能は町とはーゲゲゲの町「境港市」、世界遺産「石見銀山」　２Ｐ～
「創造農村とは」仙北市ってどこ？　９Ｐ～
季節を肌で感じるー鶴岡市　１６Ｐ～
ヴォーリズと堀の再生ー近江八幡市　２２Ｐ～
コンパクトシティは地方を救うかー富山市　２９Ｐ～

１）持続可能な町とはーゲゲゲの町「境港市」世界遺産「石見銀山」

地方都市の中心市街地が衰退して久しい。主な原因としては、若者が東京･大阪などの大都市圏に移住し地方人口が減少していること、大規模小売店が郊外部に展開し、駅前などの商店街から客足が遠のいたこと、若者の購入場所が都心やネットに流れ、既存の商店街が新しい時代に適応したまちづくりができないことなどが考えられる。自分たちの街を再生し、活性化したいという都市が日本中で同じ課題を抱えている。そうした中で、鳥取県と島根県は、2011 年時点で人口が 47 都道府県で最下位(鳥取県約 58 万人)と 46 番目(島根県約 71 万人)であり､毎年減少していて、就職の場が少ないため､若い人がなかなか定住できないのが現状だ｡こうした中で、漁業中心で栄えた鳥取県境港市が「ゲゲゲの町」として有名になり、島根県石見銀山は世界遺産として多くの人が訪れている。
こうした資産を活用したまちづくりは、持続可能な地域をつくっていく一つの手法と考えられている。この二つの町から見えてくるものは何かレポートする。

★　「ゲゲゲの町」境港市は行政主導でまちづくりが始まった

境港漁港
撮影 2011 年 9 月 17 日

紅ずわいカニの日本一の水揚げ高を誇る堺港の市場。
撮影 2011 年 9 月 17 日

境港市は人口約 35,000 人。市として人口規模は小さいが、全国 3000 に近い漁港の中で 13 箇所指定されている特定第三種漁港の指定を受けている。現在は漁獲高約 11 万トン前後だが、カニの水揚げ全国一で紅ズアイガニは全国の 8 割のシェアを誇っている｡第三種漁港とは漁港漁場整備法第 5 条で｢その利用が全国的なもの｣と定められており､国の拠点漁港として指定されている漁港だ｡東北地方では石巻、気仙沼など 4 箇所、関東では三浦漁港など 3 箇所、中国地方では下関漁港など 3 箇所、九州 3 箇所が指定されている。
境港市はＮＨＫの朝の連続テレビ小説「ゲゲゲの女房」の影響もあり、2010 年には 370 万人の観光客が訪れる町になっている。なぜ、これだけの集客があるのか、ひとつは水木しげる氏が境港市出身で､彼の漫画の素晴らしさもあるが､それだけで、人が集まるものか不思議でならない。
バブル経済期の 1988 年の竹下内閣下で、ふるさと創生事業が行われた。すべての市町村に 1 億円ずつ配り、自治体が自ら主導し、地域の魅力づくりや地域振興のための事業を進めるという政策だったが、バラマキ行政との批判も強く、多くの都市は温泉の発掘やイベントなどにより使い切り、現在に繋がっているものはあまり多くない。境港市は当時、マイワシの漁獲高が豊漁の時期で、ピーク時で現在の 7 倍

近い 70 万トン近い漁獲高を誇る港町になっていた。こうした好景気の時期に、一方ではモータリゼーションの発達で、駅前商店街は少しずつ寂れていった。当時の安田貞栄市長は、その時代に中心市街地の再生を課題として考え、若手職員による「まちづくりプロジェクト委員会」を立ち上げ「緑と文化のまちづくり」を提唱した。その後、安田市長が急逝し、後任の黒見哲夫市長(前副市長)が受け継ぎ、駅から駅前商店街へ続く地区で「うるおいのある道」づくりを進めることになる。歩道を広くし歩行者優先として、植栽やオブジェを設置する計画を立てた。そのオブジェを「水木しげる」の妖怪にするという奇抜なアイデアだった。

バブル経済期の時代、パブリックアートと呼ばれる彫刻やストリートファニチュアが盛んに造られ、公共空間に設置されていたが、一人の漫画家をテーマにしたオブジェを公共空間に設置するという事例はなかった。ロダンやムーアなどの著名な芸術家やリキテンシュタインなどの現代アート作家の作品がパブリックアートとして設置されることについては、市民の共感があったが、一人の漫画家のそれも妖怪という「誰もが納得しにくい」作品を公共空間に設置するという発想は、東京や大阪などの大都市圏では考えられないことである。これを市が先導して進めるのだから、商店街や住民は相当反対したと思われる。これであきらめてしまったら物語は終わっていたはずだが、ここで、市が頑張るのである。市職員の熱心な説得や国の補助金の獲得もあり、最初の一歩を踏み出すことになる。

新宿アイランドタワーに設置されているロバート・インディアナ作の「ＬＯＶＥ」
撮影：2014 年 9 月 29 日

1992 年に鬼太郎、目玉おやじ、ねずみ男などの 6 体のオブジェが設置され、翌年には 17 体が追加され、合計 23 体のオブジェが完成して、お披露目があったが、これで町がブレークしたわけではない。ここで、事件が起きるのである。いくつかのオブジェが盗まれ壊される事件だ。これがマスコミを通じて全国に発信されると、今まで存在を知らなかったファンが突然訪れることになる。

左：「ゲゲゲの鬼太郎」の銅像。
撮影 2011 年 9 月 17 日

右：一番の怠け者で人間らしい「ねずみ男」
撮影 2011 年 9 月 17 日

水木しげるロードにはゲゲゲの鬼太郎の妖怪を描いた広告看板をいたるところで見ることができる。
撮影 2011 年 9 月 17 日

地域内では著作権がフリーなので空き缶入れも水木マンガが使われている。
撮影 2011 年 9 月 17 日

水木しげる記念館には多くの観光客が訪れる。
撮影 2011 年 9 月 17 日

しかし、商店街にオブジェが並んでいるだけでは、やはりいつかは飽きられてリピーターを呼べなくなるのが常である。そこで、さまざまなソフトの仕掛けを行うことになる。そっくりコンテスト、妖怪検定、妖怪川柳、妖怪街灯などソフトだけではなく、鬼太郎列車の運行をＪＲが行い、自衛隊機に鬼太郎のキャラクターが描かれ、米子空港が米子鬼太郎空港と愛称までも決めてしまう。地域あげての都市の個性づくりに発展していくのである。こうしたことの積み重ねが「ゲゲゲの女房」により、いっそうブレークすることになり、370 万人という未曽有の観光客が訪れることにつながった。

左：タクシーにも目玉おやじのマークが付いている。（撮影 2011 年 9 月 17 日）
右：昭和を感じさせる店舗は古さとゲゲゲが共生している。（撮影 2011 年 9 月 17 日）

★　日帰り観光客特化型の中心市街地

20 世紀末頃の境港駅近辺の商店街では、少しずつ普通の商店が土産物店に変わり、また一部は撤退し、ほかの場所に移っていった。埋立てにより、竹内団地ができ、そこに、大型商業施設や家電関係のチェーン店が立地し、駅前で買い物をする地元の人が少なくなってきていた。私の知り合いが経営する鉄板焼き店「みそら」も、駅前商店街から 6 年前に竹内団地に移転した。昭和 33 年創業なので、約 45 年間駅前商店街で商売をしていたことになる。彼が移転した時期には、すでに多くの観光客が訪れていたが、地元の人が買い物をしたり食事をしたりする場所ではなくなっていた。そのため、彼は、観光客相手ではなく、地元の客をターゲットにするため竹内団地に移った。

左：竹内地区には商業施設のほか、工場なども進出しているが、自動車を使わないと行くことができない。
撮影 2011 年 9 月 17 日

右：駅前商店街から竹内団地に移転してきた「みそら」
撮影 2011 年 9 月 17 日

子泣き爺の像
撮影 2011 年 9 月 17 日

目玉おやじの像は手のひらサイズに近い
撮影 2011 年 9 月 17 日

商店街で売られていた目玉おやじを模した和菓子。
撮影 2011 年 9 月 17 日

鬼太郎のコスプレをしたキャラクターが案内役になっている。
撮影 2011 年 9 月 17 日

観光客は 2010 年がピークだろう。ピークが過ぎれば落ちていく観光客をどう歯止めするのかが課題となる。ピークに合わせて商売をしていると、落ちた時に手ひどいダメージを受けることになる。そう考えると、ゲゲゲに頼った商売が良いのか今は何とも言えない。また、この町には宿泊する場所も少ないので、日帰りがほとんどだ。私もホテルを探したが、海に近い場所に一か所あるだけで、おいしいものをゆっくり食べることができる場所も限られている。「みそら」でワインと海鮮、鉄板焼きを選んだが、ほかに選択肢が見つからないのだ。カニは日本一の水揚げ高を誇る境港なので、おいしい魚を食べさせてくれる店があるはずだが、駅前商店街では見つけることができなかった。米子空港は「米子鬼太郎空港」と名前を変えていて、観光客にゲゲゲの鬼太郎の町であることをアピールしている。境港駅前は整備され、タクシーの表示板には目玉おやじが載っているなど、町をあげて、観光客を迎えようとしている。しかし、良い宿泊場所、おいしい食事処、新鮮な魚介類を買うことができ、各地に発送できるような市場など、様々なおもてなしの施設や気持ちが用意されていてこそ、観光客を迎えることができるのではないかと思う。今の「ゲゲゲの町」は完全に日帰りの観光客依存型の町になってしまっているのではないかと感じた。

左：米子鬼太郎空港という名前になっている。（撮影 2011 年 9 月 17 日）
右：境港駅前は区画整理がされて整然としている。（撮影 2011 年 9 月 17 日）

水木しげるロードに設置されたオブジェは小さい、手のひらサイズのものが大半だ。マンガ好きの者にとっては、歩いてみるだけでも楽しい気持ちになってくる。マンガにでてくる鬼太郎や目玉おやじ、ネズミ男、砂かけババアなどなじみのものもあるが、全く知らない妖怪も多い。何しろ、170 体近くの妖怪がいるのだ。これが歩道に設置されていて、歩道沿いはほとんどが観光客目当ての土産屋で様々な関連グッズを売っている。これは、水木しげる氏が自作の著作権をフリーにするという画期的な試みをしているため、自由に土産物をつくることができるおかげである。道路は考えていたよりも幅が広く、2 車線の自動車用と約３ｍの歩道になっていて、

行き来がしにくいサイズだ。楽しかったが、何回もリピーターとして来るかというと疑問が残る。

★　世界遺産「石見銀山」はふたつの企業が支えている

石見銀山のある場所は、島根県大田市大森地区、人口 500 人程度の集落である。江戸時代に銀山として開発され、天領として代官所が設けられ、日本の銀生産のほとんどを担っていた。その当時は人口 20 万人という時期もあったと聞く。

この町から銀が算出されなくなってからは、歴史の教科書でしか知られることはなく、取り残された町になっていた。1980 年代になり、歴史的資産が見直され、急速にクローズアップされることになる。集落の家は、使う人も少なく、少しずつ寂れてきてしまっていたが、それを再生し活用することを進めたのは、地域の企業と人々だった。

この町の強みは、二つの安定した企業がどっしりと地域に根差して活動していることだ。ひとつは「中村ブレイス株式会社」もう一つは、「群言堂」（株式会社石見銀山生活文化研究所）である。

中村ブレイス本社。
撮影 2011 年 9 月 18 日

中村ブレイスは、創業は 1974 年で、まだ日本では義肢装具などが一般的に普及していない時期に、アメリカで修業した中村俊郎氏が自分の故郷である大森町に帰ってきて、会社を興すのである。現在は 70 人の従業員を抱え、ひとりひとりに合った義肢装具や人工乳房などを作っている会社で、技術力が素晴らしく、世界を相手にした企業として活躍している。社長の中村さんは企業の利益を地域に還元することで、社会地域貢献を続けている。大森町という小さな集落の古い民家の再生を行い、そこを社宅や飲食店など地域のために活用している。街並みの修復を進め、現在 37 の古民家の修復をしたと言う。これが世界遺産登録にも繋がっていったと思う。こうした功績で、2010 年のメセナ大賞を受賞したが、彼が社会貢献できるのも中村ブレイスの技術力が優秀で、世界に向けた仕事ができていることにほかならない。

群言堂には、数々のテキスタイルの女性用の洋服がそろっている。
撮影 2011 年 9 月 18 日

「群言堂」はテキスタイル系のファッションを中心とした生活文化雑貨を提供する専門店で、石見銀山本店を中心に直営店を東京などに持ち、全国の百貨店等に数多く展開しており愛好者も多い。デザイナーの松葉登美さんと夫で社長の大吉さんを中心に、会社を運営するだけではなく、民家の再生を行い、そこを「他郷阿部家」という宿泊施設にしている。「群言堂」は株式会社石見銀山生活文化研究所という会社の店名で、会社の名前からしても、地域にしっかりと根差して生活をしていることがわかる。「群言堂」は東京西荻窪でも古民家再生プロジェクトを進め、2011 年 9 月 1 日に Re：ｇｅｎｄｏ（りげんどう）という店もオープンさせた。

石見銀山は、2007 年 7 月に世界遺産に登録されたが、世界遺産に登録されると、一

時的に多くの観光客を迎えることになる。これにより、いままでとまったく違った生活を余儀なくされる地域の人々がいる。今まで地道に商売をしていた人が、投資を重ね、事業を拡大して軌道に乗るかと思うころにブームは下火となり、投資した借金が残るというパターンが多く見受けられる。しかし、今年9月に訪れてみても、土産店は多少あるが、落ち着いた街並みは静かな賑わいで、あまり浮ついたところもなく、ゆったりとした時間が流れていた。

左:石見銀山　大森町の落ち着いた街並み。(撮影2011年9月18日)
右:のきさきを店舗にして、地域の特産品を売っている店もある。(撮影2011年9月18日)

★　持続可能な町＝歴史を大切に、若者が元気に仕事をする町

日本最大のテーマパークである「ディズニーリゾート」は毎年のように投資し、新しいプログラムを用意しているからこそ7000円以上の入場料をとっても毎年3000万人が満足して、何回もリピーターとして訪れる。ソフトの更新なくしてはリピーターが来なくなることは必定と思われる。しかし、境港も石見銀山もソフトの更新などができる地域ではない。年に数回、様々なイベントを仕掛けたりするのがせいぜいであろう。

一方、京都や奈良の神社仏閣も多くが世界遺産になっている。しかし、これらの町は特別に変わったことをしていない。昔からのことを延々と続けている。その変化の少なさが訪れる人を安心させ、リピーターになるのではないだろうか。町の魅力は、一過性のイベントやモニュメントで造られるものではない。町の歴史性や人々の生活の知恵の中にそのヒントが隠されているのではないかと思う。

ディズニーランドのように「変化」「流動性」「時代性」にいかにアンテナを立てて、動かしていくかということが重要となっている都心型の観光地ではできないことを進めることが肝心だ。山形県鶴岡市には黒川能という能の原点のような行事がある。岩手県早池峰には神楽がある。みんな季節的な行事となっていて、それを伝承するために日常的な稽古などが行われている。そして、そこには歴史性と風土に地元の心地よいもてなしがあることが、人をひきつける。

境港のように、現実離れした数の観光客を迎えてしまったことで、これからは観光客の減少が予想される。これをどこで食い止めることができるのか、あまりにも来すぎた観光客を相手に商売していたことが地域のこれからの生活にどのように影響を与えるのか。長い目で見ていかなくてはならないと思う。
20 年、30 年先を考えたときに、将来の都市像をどのようにするか、その部分には今から投資しておく必要がある。境港の基盤は漁業で栄える都市である。この漁業を中心に据え、それを盛りたてるための工夫やイメージづくり、町の歴史や文化を掘り起こすまちづくりを少しでも早く始めていくことが重要である。
一方、石見銀山はあまり変わらずに静かで落ち着きのある賑わいの地域を二つの会社が支えている。持続可能な町とは、働く場所があり、若者が元気に仕事をする町、それが代々続いていく町だと思う。そういう町として今後も続いてほしい。

２）創造農村とは－仙北市ってどこ？

平成の市町村大合併は、地域の名前をわからなくした。東日本大震災時に南三陸町と聞いて、岩手県にあるのだろうと思ってしまった。公立志津川病院の映像を見て、志津川が南三陸町なのだと思った次第だ。仙台で学生時代を過ごし、いわきに家を持ち東北に馴染みのある筆者ですらそうなのだから、都心部で暮らす人にとって、合併により変更になった「まち」の名前はわからないのは当たりまえだ。仙北市と聞いて、大半の人はその場所を正確には把握していない。仙台の北にあるの？という答えが返るのが普通だ。仙北市は秋田県角館町、田沢湖町、西木村が合併してできた市だが、合併の後遺症があるものの、創造農村という新しい創造性豊かな活動を行い、注目されている。

★三つの地域の歴史をたどる

仙北市の中心である角館の成り立ちは、この地を支配した戸沢氏が小田原参陣した記録があり、豊臣時代まで遡る。徳川時代に戸沢氏が転封し、佐竹氏が秋田一円(久保田藩)の領主となり、1658 年に佐竹義隣が角館の支配の任につき、以降、佐竹氏が明治時代まで支配することになる。

この時代の経済基盤は農業だが、薪炭の産出もあり、市内の桧木内川岸には西川御薪役所が設けられるなど、秋田藩の需要を担っていた。ほかには白岩焼窯業と樺細工があったが、白岩焼は明治時代に廃業している。樺細工は桜の樹皮を利用して細工するが、当時は下級武士の手内職として作られていた。

新しくなった田沢湖駅
撮影:2012 年 6 月 24 日

角館の初代義隣は京都の公卿の出自であり、二代義明の妻も三条西家の娘であったため、京都との交流は文化面でもあったと考えられる。現在の武家屋敷の町並みを彩る枝垂れ桜は義明が京都から苗木を取り寄せて育てたという説もあり、京都との関係は物心とも深かったようだ。義隣は蓮歌を趣味とし、文芸を好んでいたこともあり、その後も、藩校が中心となり学問の奨励を行っており、現在でも教育には熱心な地域である。芸術分野では、1774 年に発行された「解体新書」の挿絵を描いた小野田直武を指導者として「秋田蘭画」を確立するなど、後世の日本の絵画にも影響を与えている。

角館から阿仁舎行の秋田内陸縦貫鉄道。阿仁鉱山は銀・銅の産出で有名で 1978 年まで操業していた。
撮影:2012 年 6 月 24 日

田沢湖の生保内（おぼない）地区は、南部藩との藩境があったところで、昔は生保内街道を中心に物資の往来が盛んだった場所だ。この街道を中心に秋田と岩手の文化の往来があり、混乱期には戦乱の道として使われていた。生保内から雫石(岩手県)にかけては「歴史の道百選」に選ばれているが、生保内は歴史的町並みが残っているわけではなく、普通の町となっている。田沢湖駅は田沢湖や乳頭温泉などへ

向かう交通の拠点となっている。
旧西木村は、中世の戸沢氏の時代、角館に城が移るまでは軍事的、政治的な拠点になっていたが、江戸時代以降は、阿仁鉱山の開発に伴い、角館と阿仁を結ぶ阿仁街道沿いに集落が発展してきた地域で、普通の日本の農村という感じである。

★市町村合併の功罪

こうした、背景の違う町村が合併したのだから、地域の風土や産業も違い、地域格差もあった。地域は農業と公共事業、観光で生きていく町だったため、なかなか合併まで到達できず、特に角館町は最後まで合併には消極的であった。
それでも合併したのは総務省や県の強い指導があったためだ。
国による今回の合併策（平成の大合併）は 1999 年～2010 年(2005 年度がピーク)にかけて行われ、自治体を広域化することによって財政基盤を強化し、地方分権の推進を図ることを目的としていた。その結果、1999 年に 3,232 あった市町村は 2010 年には 1,727 になり、ほぼ半減した。(2012 年 1 月現在は 1,719)
「国から地方への税源移譲、国からの補助金の廃止・削減、地方交付税の見直し」を一体改革（三位一体改革）として進め、地方の財政的な独立性を確保するという小泉政権下の政策を踏襲して進められた。
夕張市の例があるように、地方財政は破たん寸前の状況であり、国は合併特例債の発行による財政支援と三位一体改革による地方交付税の大幅な削減を進めたため、脆弱な財源の市町村では国や県に対抗できず、財政運営の不安から合併を選択せざるを得ない状況に追い込まれた。原子力発電所の立地に伴う電力事業の交付金を獲得できる女川町（宮城県）や大熊町（福島県）など、地方交付税の依存度が低い町村は合併を選択していない。
合併の結果、市町村は行政改革を進め、職員の削減や公共施設の見直しなどを行った。議員や職員の削減で表面的な合理化は進んだが、職員削減は、職員をすぐに辞めさせることができないため、定年まで待つことになり、職員採用を控える自治体も多く、若い人の就職の場を奪うことになった。団塊の世代が大量に定年になった 2010 年前後は、ベテラン職員の不在や、職員数が削減され広域になったことで、行政が身近に感じられないなど、地域のコミュニティも希薄になることも生じた。
合併後に市町村の財政状況が好転したかというと、交付税を減らされ、補助金も減ったため、苦しさは変わらず、合併したメリットは一時的なものだった。
仙北市を訪ねたが、中心の市役所がどこかわからなかった。３町村が合併したが、以前の庁舎が役割を分散している状況だ。田沢湖庁舎は、市長執務室があり、総務・財政・企画系の部署と議会が入っている。角館庁舎は教育委員会と防災関係の部署が入り、それ以外に角館中町庁舎に観光課が入っている。西木庁舎には、福祉事務

田沢湖庁舎は田沢湖駅から少し離れた場所にある
撮影:2012 年 6 月 24 日

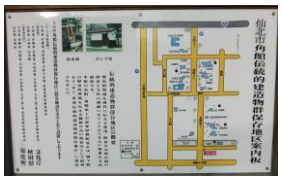
西木庁舎の周辺は農村地帯だ。
撮影:2012 年 6 月 24 日

角館中町庁舎は武家屋敷の入り口付近にある。
撮影:2012 年 6 月 24 日

所や建設関係部署がある。各庁舎にある地域センターで戸籍などの基本的な事務は行っているが、福祉のサービスを西木地区以外の人が相談する場合は、各庁舎で受け付け、そこに西木庁舎から職員が出向くという形になる。合併前は各自治体に福祉事務所があったが、一つに統合し、職員を減らしたためだ。西木庁舎から仙北市の北部の玉川温泉までは車で 2 時間近くかかり、そこまで出向くケースワーカーは大変だ。
市町村合併、道州制導入など、地方自治の確立で小さな単位で権限が発揮でき、住民にとって自分の町に愛着を持てるという理想には賛同できるが、今回の大合併は国の財政の再建が優先されており、自治体にとっては、まだまだいばらの道は続いていきそうだ。

★角館・田沢湖・温泉、三位一体の特徴ある観光戦略

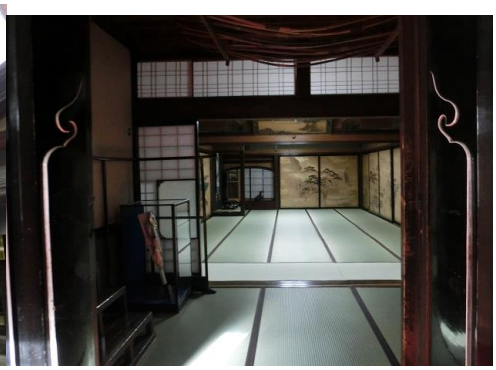
角館は「小京都」といわれ、江戸時代の武家屋敷の雰囲気を残した町、田沢湖は日本で一番水深の深い湖で(423.4m)、クニマスがいたことで知られている。
角館の武家屋敷は枝垂れ桜の並木が美しく、訪れる人はこの町並みに感動する。町の人たちがそこに住み、生活し、景観を守ることで、町の個性や魅力を作り出している。この地域は伝統的建造物群保存地域として 1977 年に指定されている。
角館の観光客数は、2010 年に約 258 万人で、特に、桜祭りのころは 156 万人の観光客が訪れた。2011 年は東日本大震災のため半減し、全体で約 130 万になった。2012 年の桜祭りには 120 万人が訪れたので、持ち直したが、震災被害のほとんどない秋田県でも観光客の落ち込みはひどかったようだ。
1997 年には、秋田新幹線が開業し、テレビや雑誌の取材が増大し、観光客が飛躍的に伸び「こまち効果」とも言われた。新幹線開業で、盛岡での乗換えの手間が省け、東京から 3 時間程度になったことが大きい。特に春は弘前と角館の桜が格好の素材で、ＪＲ東日本で様々なポスターを制作し日本中に掲載するため、多くの観光客を呼び込んでいる。
以前は、冬は雪に埋もれ、店を閉じてしまう商店が多かったが、ＪＲキャンペーンのおかげで開ける店が多くなった。昔はこの時期は従業員を解雇していていたが、通年にわたって雇用されることで雇用対策になり、職員のモチベーションも高くなり、お客様を迎えるおもてなしの心も醸成されている。
武家屋敷では後継者問題があり、高齢者が家を維持することが難しく、屋敷を貸す人も出てきている。秋田は教育が盛んで、東京や仙台の大学に行く若者が多い。卒業後も都心で就職するため、帰ってくる若者が少なくなっている。残っている人が町を支えているが、企業誘致などが地理的にも難しく就業の機会が少ない。人口は合併した 2005 年 9 月に 32,637 人(世帯数 10,802)だったが 2012 年 6 月には 29,648


伝統的建造物群保存地域の案内板
撮影:2012 年 6 月 25 日

典型的な武家屋敷。居住する人がイメージを損なわないように建築物に気を使っている。
撮影:2012 年 6 月 25 日

茅葺屋根の改修を行っている武家屋敷
撮影:2012 年 6 月 25 日

人（世帯数 10,814）になっている。所帯数が減っていないのは一家族の人数が減っていることにほかならない。
今回、角館町観光協会長で、地元で安藤醸造元を経営する安藤大輔さんに話を伺ったが、観光の課題は、武家屋敷を見るということだけでは 2 時間で終わってしまうことだ。角館には宿泊施設が少ないため、田沢湖地域や乳頭温泉や玉川温泉と連携して、一体で客を迎えるという方向で事業を進めたいとのこと。角館で町を歩き、田沢湖畔でたたずみ、温泉でゆったりとした時を過ごす。そうしたツーリズムを提案している。現在、田沢湖・角館観光連盟を設立し、共通のロゴを作るなど、積極的に観光客誘致を進めている。



左：安藤醸造元：1891 年（明治 24 年）築の煉瓦蔵
撮影:2012 年 6 月 24 日

右：蔵の内部には 24 枚の襖絵など、当時のまま保存されている
撮影:2012 年 6 月 24 日

安藤醸造所の屋敷内の煉瓦蔵の扉。
撮影:2012 年 6 月 24 日

★プロデューサー・わらび座

今回、角館駅に着いて、最初に訪問した場所が、たざわこ芸術村だ。以前から「劇団わらび座」がここを拠点に活動し、日本だけでなく海外でも公演を行っていると聞いていたので、どんなところなのかを見てみたいと思っていた。
角館駅からレンタカーで約 10 分程度、普通の農村地帯に芸術村はあった。よく、こんな場所で営業が成り立つなあというのが最初の感想だ。
65 年前の 1951 年に東京で旗揚げし、53 年には秋田県田沢湖町に拠点を構え、全国各地の民謡や芸能を調査して舞台化することを始めた。戦後の混乱が続く時期に田舎で誕生したというのが不思議だ。秋田県は民謡の宝庫であり、人々が音楽に対する造詣が深いことはわかるが、このころに音楽や演劇がすぐにこの土地で受け入れられたとは思えない。地域との軋轢や団員の生活の確保など、血のにじむような様々な経験、努力を経て、ここに定着したのだろう。
1974 年には全国からの支援で「わらび劇場」が誕生し、75 年には 250 人収容の宿泊施設を作り、92 年には「温泉ゆぽぽ」をオープンさせるなど、リゾート施設としても充実させてきた。
この間、海外での公演も数多く進め「秋田県芸術文化賞」をはじめ、文部科学大臣による「地域文化功労者表彰」、国土庁の地域づくり表彰「国土庁長官賞」など数々

の賞を受賞している。97 年には田沢湖ビールのブルワリーもオープンしている。
21 世紀に入ると 50 周年記念作品で東北を題材に、坂上田村麻呂と戦った「アテルイ」の公演がスタートし、現在も公演は続いており、スタジオジブリの「おもいでぽろぽろ」や手塚治虫原作の「火の鳥鳳凰編」をミュージカル化するなど、地域に根差したミュージカルのみならずグローバルな視点から制作を行っている。これも、「人間の尊厳、いのちの美しさを描き、人々の心の糧、生きる力になる芸術活動を進めること」を理念としているからにほかならない。2006 年には愛媛県東温市に「坊ちゃん劇場」をオープンさせ２劇場体制となっており、現在、７つの公演、グループで年間 1200 回にも及ぶ公演を全国で展開している。
演劇関係だけではなく、30 年前からはソーラン節や農業体験などを取り入れた新しい形の修学旅行「わらび座への修学旅行」を実施し、現在は年間 150 校 2 万人が訪れている。
また、祭りの囃子や踊りも地元で伝承してきた人たちと一緒に行うなど、すたれていく傾向のある伝統文化のアーカイブとしての機能も持っている。
この「わらび座」と地元が中心となって進めているのが「創造農村」の実践だ。

たざわこ芸術村案内図
撮影:2012 年 6 月 24 日

わらび劇場では「アテルイ」のロングラン公演が行われていた。
撮影:2012 年 6 月 24 日

地ビールの田沢湖ビールを飲むことができる田沢湖ビールレストラン
撮影:2012 年 6 月 24 日

★「創造農村」って何

21 世紀に入り、日本は成長期から衰退期になり、今までの資本主義経済のシステムが行き詰まりＧＮＰは 3 位に落ちた。失業する若者が多く貧困層も増え、少子高齢化のスピードは速く、人口減少も加速度的に進むことが予想され社会的問題が大きくクローズアップされている。また、効率性ばかりが尊重され、過当な競争に身をさらされ、毎年 3 万人以上が自殺する時代になってしまった。地域のコミュニティは崩壊し、人を大切にするということ自体が難しくなっている。自治体は財政問題で悩み、中心市街地の衰退は目を覆うばかりの状況だ。こうした中で、都市部では、市民一人一人が地域の課題、地球環境の問題などに対して創造的で自由な活動を通じて、持続可能な社会を目指していく「創造都市」という考え方を取り入れる自治体が出てきている。金沢市、横浜市などではアーティストやクリエータの創造的な活動を推進することで地域の個性を伸ばし、都市の魅力づくりを行い、成果をあげてきた。
しかし、都市は都会だけで成り立つものではなく、流通にしても文化にしても農村とは切っても切れない関係がある。人材については、農村部や地方から都心部に集まり、彼らが日本を動かしてきた。
農村部では都市部よりも少子高齢化が進み、山林田畑の荒廃、働き手の不足、空き家の増加、高齢者の移動手段の欠如、地域のコミュニティの希薄化など多くの課題を抱えている。こうした問題に取り組み、農村の「弱み」を「強み」に変えること

により、農村部の活性化と地域への流動人口を増やし、持続可能な新しい農村を作っていくこと、それが「創造農村」の取り組みだ。
地域資源である空き家の活用、地域の特産の奨励やスローフード、体験型のツーリズムなどによる観光客の誘致、地域の人材の育成などに力を入れている。
仙北市では、2010 年度に文化庁の「文化芸術創造都市モデル事業」の助成金を受け、文化・観光を生かしたまちづくりの連続講座を重ね、「田園都市型・文化芸術創造都市=創造農村」を目指した動きを進めた。2011 年度は、具体的な事業として秋田公立美術短期大学との提携で「蔵とアートをめぐるネオ・クラシック！カクノダテ」などの事業を進めた。
これは観光客が多い武家屋敷ではなく、商人街である外町（とまち）地区を中心に角館を象徴する安藤醸造所や西宮家などの蔵を活用し、そこに大学生や若手のアーティストが 20 名ほど参加し、現代アートを展示する展覧会だ。若い力を角館に入れていくことを通じて地域の活性化を狙っている。
2011 年 10 月には創造農村の先駆け地域として「第一回創造農村ワークショップ」を開催し、北海道東川町、新潟県十日町市、兵庫県篠山市などから志を共有する人々が集まってきた。こうした実績により、2012 年度の文化庁長官表彰「文化芸術創造都市部門」を受賞した。

明治後期から大正に建てられた５棟の蔵と母屋がある西宮家
撮影:2012 年 6 月 24 日

大正期に作られたカネダイ薬局の煉瓦蔵
撮影:2012 年 6 月 24 日

★仙北市内の散策

角館の桜は武家屋敷地域以外にも約 2ｋｍの桜並木が桧木内川（ひのきないがわ）沿いにあり、春は武家屋敷の桜並木と競いあうように美しい。武家屋敷の裏道も緑化されて桜が植えてあり、ここに住む人たちの町を愛する気持ちがにじみ出ている。残念なのは、武家屋敷には不似合いなアスファルト舗装で、そこを自動車が普通に走っていることだ。また、その道に一か所、自動販売機が置かれているのは、この町には似つかわしくない。

武家屋敷の町並みに違和感を与える自動販売機（工夫すれば景観をよくすることもできるはずだ）
撮影:2012 年 6 月 25 日

左：春になると桜並木が美しい桧木内川
撮影:2012 年 6 月 25 日

右：武家屋敷の町並みだが、アスファルト舗装で普通に自動車が走っている。春になると桜が一斉に咲き誇る
撮影：2012 年 6 月 25 日

田沢湖駅は近代的な駅舎に生まれ変わったが、駅周辺には観光施設がないため、新幹線の客は、ここからバスやレンタカーで田沢湖や温泉に行くというのが通常のパターンだ。近年、山梨県西湖で絶滅種の「クニマス」が見つかり、そのルーツは田

沢湖だが、現在の田沢湖に「クニマス」はいない。玉川温泉などの酸性の水が流れ込み、田沢湖が酸性化しているため育たない。そのため、湖の中和化を進めているとのこと。田沢湖には、キャンプ場やハーブガーデンなどがあるが、龍になって湖の主となり湖底深く沈んでいった「たつこ姫伝説」像を見て廻ると、これで気が済んだ気持ちになり、時間をかけて湖周辺を廻ることはしなかった。

田沢湖畔にたたずむたつこ姫像。
撮影:　2012 年 6 月 24 日

左：乳頭温泉　鶴の湯入り口
撮影:　2012 年 6 月 24 日

右：鶴の湯の露天風呂　湯は少しぬるめで、時間はゆっくりと流れている
撮影:2012 年 6 月 24 日

実は今回、楽しみにしていたことが一つある。「まちある記・千住」で銭湯に入れなかったことが頭に残っていて、日帰りでもいいから温泉に入りたいと思っていた。そこで、角館から車で約１時間の「乳頭温泉　鶴の湯」を訪ねた。昔ながらの雰囲気を残し、露天ぶろなども自然のなかに当たり前のように存在し、私の中では日本で 5 本の指に入る温泉と思う。平日にも関わらず日帰りの温泉客が大勢来ていた。角館で町を見て、田沢湖で憩い、農業体験したりして温泉に入る。年に数回のこうした旅行は中高年の楽しみのひとつだ。６月末の日曜日の朝、角館駅は大勢の中高年で賑わっていた。ＪＲ東日本「大人の休日倶楽部」で格安のツアー乗車券が販売されているからだ。角館・弘前・盛岡など北東北圏の旅行は、今後も増えていくに違いない。

角館駅に午前 11 時少し前に着いた「こまち号」の乗客。日曜日の午前中だが列車は満員だった。
撮影:2012 年 6 月 24 日

そうした観光客の増加に浮かれずに、東北人の矜持として「仙北は震災や放射能の被害はほとんどなかった。岩手や宮城、隣で苦しんでいる人がいるのに、自分のところは大丈夫だからと言うような観光客の誘致は、東北人にはできない」と安藤さんが話していたことが心に響く。

現在行われている東北観光博の案内所(仙台駅)、東北パスポート売り上げは田沢湖・角館が仙台に次いで 2 番目となっている。
撮影:2012 年 6 月 24 日

今年の夏休みに、また東北地方を訪ねたい。訪ねることが震災復興の支援となると思うからだ。

３）季節を肌で感じる－鶴岡市

山形県鶴岡市を最初に意識したのは 40 年前に遡る。当時、妻の実家の福島県いわき市に暮から正月に滞在するのが恒例だったが、暮になると山伏（修験者）が来て「家内安全･無病息災」の札を持ってくる。義父がお布施を渡し会話を交わすのだが、山伏は「羽黒山から来ました」と言っていて、それが鶴岡や出羽三山を意識した始まりだ。

その後、藤沢周平の小説で「海坂藩」のモデルが鶴岡と知り、何人かの友人からは、黒川能という 500 年以上続く伝統芸能があると聞き、なんと魅力的な地域のだろうと思い始め、これまで 5 回ほど訪れていた。今回は、歴史を踏まえ、昔からの伝統や文化を大切にしながらも、新しいことにチャレンジしている鶴岡市を取り上げる。

大寶館(1915 年竣功　当初物産陳列所で、その後図書館として活用。1988 年から郷土人物等資料展示施設として公開されている。
撮影：　2012 年 1 月 14 日

致道博物館（1881 年竣功、旧西田川群役所・国の指定重要文化財）
撮影：　2012 年 1 月 14 日

鶴岡カトリック教会天主堂（1903 年竣功､国の指定重要文化財）
撮影：　2012 年 1 月 14 日

★　市町村合併しても地域の個性が失われない魅力がある

鶴岡市は、現在の鶴岡公園にあった鶴ヶ岡城を中心とした城下町として栄えた。鎌倉時代末期に武藤氏が大寶寺城(鶴ケ岡)を築城したが、その後、庄内地方の覇権闘争により武藤氏、最上氏、本庄氏、上杉景勝と次々に領主が変わり、1601 年に徳川家康側だった最上義光が鶴ヶ岡城を修復してこの地に入って一段落した。最上義光が亡くなった後は、領内が 4 つに分割され、1622 年に酒井忠勝が信州から鶴ヶ岡城に移り、250 年の間は酒井氏の居城として栄えた。明治 9 年（1876 年）に城は壊され、その場所に荘内神社が建てられ、現在鶴岡公園となっている。

鶴岡市は 2005 年に市町村合併により、人口 13 万 5 千人、区域面積 1,311ｋ㎡(全国で 10 位)の大きな市となった。中心市街地の鶴岡公園に荘内神社があり、その周辺には、大寶館や致道博物館、キリスト教会などの近代建築が残っている。また、鶴岡藩の歴史を継承した藩校「致道館」があり、近くに内川が流れ、鶴岡公園のお濠と合わせて豊かな水辺空間を作っている。

左：鶴岡市内を流れる内川
撮影：　2012 年 1 月 15 日

右：内川河畔の赤煉瓦のトイレ（旧鶴岡町消防組第八部消防ポンプ庫）
撮影：　2012 年 1 月 15 日

サンロード日吉商店街は、冬で一人も歩いていなかった。
撮影：2012 年 1 月 15 日

テナント誘致や売却の看板が目立つ
撮影：　2012 年 1 月 15 日

銀世界の庄内地方。陸羽西線最上駅で 2 時間ほど、列車の出発を待った。
撮影：　2012 年 1 月 14 日

鶴岡市櫛引町黒川地区
撮影：　2012 年 1 月 15 日

右：鶴岡中心市街地案内図
撮影：　2012 年 1 月 14 日

まちづくりで感心したことは、内川のほとりに煉瓦建造物のトイレがあるが、これはほかの場所にあった消防のポンプ庫を移設し再利用したこと。昔からの街の雰囲気を大切にしようとする気持ちがこのトイレに表れている。（冬季は閉鎖中）。

商店街は駅から続くサンロード日吉商店街があるが、シャッター商店街になっており、店舗の売却や賃貸の表示が掲示されている店も多い。駅から歩き内川を渡るとすぐに鶴岡銀座があるが、この商店街も土曜日の午後に訪れたが、あまり賑わっているようには見えなかった。

鶴岡市を取り巻き出羽三山があるが、今でも修験者（山伏）がいて、敬虔な修行場となっている。信仰の中心である羽黒山、小説で有名な月山、そして湯殿山と自然に恵まれた特徴のある山々を抱え、周辺には、湯野浜温泉、あつみ温泉、湯田川温泉など、温泉巡りを楽しめる地域でもある。農村地域では、「つや姫」というブランド米を作り、庄内地方のみで生産している野菜類もあり、昔からの地方文化や風土を大切にした生活を続けている。食材に関しては最近、急激に地域の特性が見えてきているように感じる。ふつう、市町村合併により地域性が薄くなり、地域特性が見えなくなることが多いが、鶴岡では各地域が個性を活かし、イメージを変えない形で魅力を発信している。

滝田洋二郎監督の「おくりびと」で小林大悟（主演の本木雅弘）が鳥海山をバックにチェロを奏でるシーンがあるが、あのシーンひとつを見ても自然の豊かさが伝わってくる。庄内地方は日本の四季を敏感に感じられる地域だ。今回訪れた冬は一面の銀世界、春になると田んぼに水が引かれ、それが太陽に光り反射する。鶴岡公園の桜の花は水面に美しく光り、散るとそれが濠一面に桜の色を付ける。夏には緑あふれる田んぼや山々が囲い、秋になると黄金色の稲穂が垂れる。そういう季節のサイクルがこの地域にはある。

★　だだちゃ豆とアルケッチャーノ

アルケッチャーノの建物は、国道沿いのドライブインの再利用なので中心市街地からは少し離れている。
撮影：2012 年 1 月 14 日

鶴岡の食材を初めて意識して食べたのは「だだちゃ豆」だ。うわさには聞いていたが、8 月下旬に地元でしか売られていなかったため、なかなか食べることができなかった。「だだちゃ」というのは親父という意味の方言だ。鶴岡出身の友人が「白山のだだちゃ豆」を送ってくれ、食べたときの感激はいまでも忘れない。少し青臭さがあるなかで、しっかりとした豆の甘さが噛むごとに沸いてくる。ビールと一緒にあっという間に一房がなくなっていくのだ。丹波の黒大豆枝豆と並び日本一の枝豆だ。

しかし、これだけではない。地元の方々が伝統的な食材を見直しして、種を育て昔ながらの野菜を栽培している。そして、その素材をうまく活かし、使っているのがイタリアンレストラン「アルケッチャーノ」だ。奥田政行シェフがこの町で、レストランを開き、地域の方々と一緒に昔からの食材を大切にして育て、食べることにより、鶴岡は一躍、食材を大切に育てる場所として有名になった。

何を食べても「美味しい」と思わず言ってしまう筆者
撮影：　2012 年 1 月 14 日

今回の取材でも、「アルケッチャーノ」で食事をしたが、地元で取れた水菜、小松菜、春菊、カブなどはしっかりした味を主張しており、庄内麩に載せられたマグロのタルタルや地元の魚を使った料理がそれを引き立てている。7,350 円のコース料理で 10 品の料理が出たが、地元の食材を使い、素材を活かしやさしい味付けになっており、とても気持ちの良い時間を過ごすことができた。ワインはイタリア産と山形産を提供しており、特別に地元の酒造会社に作らせた日本酒もある。どれも料理と合って心地よい。

朝早くから出動する除雪車。
撮影：　2012 年 1 月 15 日

２泊３日鶴岡に滞在したが、一度も太陽を見ることはできず、いつも曇り時々雪という状況で、雪の深い地域では朝から除雪車が出動している。屋根では雪降ろしが行われており、雪国の生活の厳しさは都会暮らしには想像できない。土曜日の午後に中心市街地を歩いたが、街を歩く人の姿は少なかった。翌日の日曜日には「鶴岡銀座」で「日本海寒鱈まつり」を開催していたが、昼少し前に行くと、市内各地から人が押し寄せていて、このイベントを楽しんでいた。雪のちらつく町で温かい寒鱈汁（どんがら汁）は身体を温める。むろん日本酒の生産も豊富で旨い。鶴岡では地元の食材を使った料理を普段に作り、食べているようで、何ともうらやましい。

鶴岡市櫛引町黒川地区では雪下ろしが日常茶飯事。
撮影：　2012 年 1 月 15 日

左：土曜日午後の人通りが少ない鶴岡銀座。撮影：2012 年 1 月 14 日
中：2 万人が集まる寒鱈まつり会場。「どんがら汁」（右）撮影：2012 年 1 月 14 日

★冬の一番厳しい時期に行われる「黒川能」

2005 年の合併で櫛引町は鶴岡市に編入された。櫛引町の黒川地区では毎年黒川能が行われている。黒川能は世阿弥（1363-1443）の確立した猿楽能の流れをくむが、現在の能の５流（観世、宝生、金剛、金春、喜多）には属さず、独自の伝承を続け、500 年以上前から連綿と受け継がれてきた庄内地方独自の神事である。800 年代に建立された春日神社の神事能として伝えられているため、能が芸能になる前の神事の姿を伝えていると言われている。この地区独自のもので春日神社の氏子のみによって演じられる。氏子は約 240 戸、能役者は子供から長老まで約 160 人、能面 230 点、能衣装 400 点、演目数は能 540 番、狂言 50 番という規模で、5 流ではすでに伝承されていない謡曲や受け継がれていない演目も現存している。

黒川能は、本来は 2 月 1 日、2 日に実施される「王祇祭」で奉じられるものを指す。能は 2 月 1 日の夕方から始まるが、子供たちが稚児舞を演じ、その後の大人の舞は翌朝まで続く。初日に舞う場所は、地区の氏子の家（当屋という—上座、下座の 2 箇所の当屋がある）であり、毎年、順番に当屋が指定され、家を改築して舞台と客席(100 人規模)がつくられる。費用はすべて氏子の持ち出しになるので、家族や親族が負担する。2 日目は朝から春日神社で奉納舞が演じられる。10 年ほど前に地元の方の好意で見せていただいたが、深々と雪が降る地域で、外の音が遮断された場所での能は、芸能というよりも神秘性あふれる神事としか思えなかった。

黒川能は、現在、季節ごとに様々な場面で演じられている。2 月最終土曜日(今年は 25 日)は蝋燭能で、一般も見学できる。また、3 月 23 日は祈念祭、5 月 3 日は例大祭（春日神社）が行われ、7 月 15 日は羽黒山花祭り、7 月最終土曜日は水焔祭(櫛引運動公園)、8 月 15 日は荘内大祭（荘内神社）、11 月 23 日は新嘗祭(春日神社)と季節に合せ、能が演じられている。こうした伝統を続けるために、子供たちは 4 歳頃から家庭で親や長老から教えられている。現在は伝承のために黒川能伝習館が春日神社境内に設けられている。春日神社に隣接して王祇会館があるが、そこでは衣装や能面などの展示や黒川能の記録が放映されていて、能の観覧申込みも受け付けている。黒川能は 1976 年に国の重要無形民俗文化財に指定された。

冬の季節の黒川地区の春日神社は雪に埋まってしまう。
撮影：2012 年 1 月 15 日

王祇会館では、さまざまな資料が展示されている。
撮影：　2012 年 1 月 15 日

黒川能伝習館では子供たちが伝統文化を体験、学習している。
撮影：　2012 年 1 月 15 日

黒川能上座の案内看板。下座と 2 か所の民家での黒川能が開催される。
撮影：　2012 年 1 月 15 日

左：2001 年の上座(民家)で行われた王祇祭
撮影：2001 年 2 月 1 日

右：春日神社で行われた奉納舞
撮影：金子哲男、2001 年 2 月 2 日

★ 民間活力でつくる庄内映画村と鶴岡まちなかキネマ

鶴岡まちなかキネマは横浜に本社があった松文産業鶴岡工場の再利用（1932 年竣工）
撮影：2012 年 1 月 15 日

まちなかキネマ内部には土産店も併設されている。
撮影:　2012 年 1 月 15 日

街なかには数か所宣伝看板が設置されている。
撮影:　2012 年 1 月 15 日

近年、邦画が注目を浴びているが、映画作りに必要なロケ地を探すのは非常に難しい。様々な都市でフィルムコミッションが立ち上がり、我が町で映画やテレビドラマを撮ってほしいという要望が強い。しかし、様々な法的な規制で、市街地での撮影は難しく、映画人にとって、ロケ地を探すことは最大の難題だ。

鶴岡市では、何回か単発で映画のロケが行われてきた。地元が深く関わるきっかけは山田洋二監督の「たそがれ清兵衛」だ。庄内ロケ支援実行委員会が形成され、地元の人たちが中心となり、ロケ支援が進められた。この映画がヒットし、その後、同じ方式で「隠し剣　鬼の爪」「蝉しぐれ」と藤沢周平作品の映画化が進められた。こうした中で、オープンセットを訪れる人も多く、使用後のオープンセットを産業化できないかと、「蝉しぐれ」のプロデューサー、宇生雅明氏(庄内映画村(株)代表取締役)が考え、地元を巻き込んで、5000 万円の資金を調達し庄内映画村株式会社を設立した。この会社のおかげで「スキヤキ・ウエスタン・ジャンゴ」や「ＩＣＨＩ」「山桜」「おくりびと」など次々に庄内での撮影が動き始めた。庄内映画村のオープンセットは 26 万坪強と、他のオープンセットと比べると格段に大きい。映画村オープンセットには年間 20 万人近い集客もあり、事業採算性が取れているようだ。残念ながら、冬季は３ｍ近い積雪で閉鎖しており、筆者もたどり着けなかった。

一方、鶴岡市、酒田市という庄内地方の 2 大都市の中心市街地には映画館がなくなってしまっていた。若い人が映画という娯楽を楽しめる環境がなくなり、中心市街地から離れていく現象が起き、中心市街地の活性化を図ることが重要な課題となっていた。そこで、地元金融機関である荘内銀行の主導のもとに鶴岡商工会議所加盟 32 社の出資を得て、2007 年 6 月に「株式会社まちづくり鶴岡」を設立し、2010 年 5 月に「鶴岡まちなかキネマ」という 4 スクリーンのシネコンを開設させた。この施設は絹織物工場だったものを経済産業省の補助を受け約 10 億円かけてリノベーションしたものだ。映画館が街中にできたことで、街の活気は少しずつ取り戻し始めているのではないかと思う。新しく施設を作るのではなく、古い施設を有効活用する手法は、とても効果的と思われる。

新しい施設を作っても需要がなければ使われない。鶴岡駅前の再開発ビル「MARIKA」は、一方はホテルで使用されているが、片方は閉店し、駐車場だけが利用されている。「致道館」の前にできた「鶴岡アートフォーラム」は土曜日にもかかわらず、展覧会などの行事は行われておらず、誰もいなかった。「致道館」は歴史的な木造建築物で「君子学ンデ以テソノ道ヲ致ス」という論語の一節から名づけられたように、教育の場として利用されてきた。この建物を現代に活用して、「アートフォーラム」のような施設に転換していくような発想を持ってまちづくりを進めるほうが鶴岡らしいと感じた。

左：藩校「致道館」
（1805 年創立、国指定史跡）
撮影：2012 年 1 月 14 日

藩校「致道館」の内部
撮影：2012 年 1 月 14 日

鶴岡アートフォーラム外観。
撮影：2012 年 1 月 14 日

フォーラムの中は土曜の午後だったが人がいなかった。
撮影：　2012 年 1 月 14 日

写真左側の「MARIKA」東館の商業施設は撤退している。
撮影：　2012 年 1 月 14 日

左：鶴岡公園内の荘内神社
撮影：　2012 年 1 月 14 日

右：鶴岡公園にある藤沢周平記念館
撮影：2012 年 1 月 14 日

★藤沢周平の愛した土地、人々の普段の生活が魅力をつくる。

近年の鶴岡の魅力あるまちづくりのきっかけをつくったのは藤沢周平ではないかと思う。彼の小説に出てくる「海坂藩」は、いつも庄内地方の自然の情景や人々の温かさ、食材などを伝えてくれている。その小説を読んで、ある人は映画を撮ろうと考え、ある人は地域の食材を活かした仕事をしたいと思い、ある人は黒川能を見たいと東京から出かける。あまり無理をせずに、その地域の風土や習慣、歴史を大切にしながら、根本的なところは変えずに暮らしていく。そうした姿を藤沢周平は伝えている。

藤沢周平は、「庄内人は、キラキラしたもの、ふわふわしたものを追い求めるのではなく、地道なものを求めている。雪は我慢することを教える。我慢して春を迎えるが、我慢している間に何かを考えている。これは雪が教えてくれている。庄内人は世渡りがうまくないのが利点だ。そういう土地柄の方が将来は伸びる。そのうち、よその土地から見ると、こうした庄内特有の文化で生きていくことがうらやましくなるはずだ。」と言っている。

この話を、藤沢周平記念館のビデオで見て、筆者の鶴岡出身の友人たちは、故郷をこよなく愛し、地道でしっかりとしていて、心優しい仲間だと改めて思った。

そして、「自分の土地を大切にして、身の丈にあった生活をしていく」ことが、地震・津波・原発で痛めつけられている今の日本の再生を実現できる近道なのかと思う。

４）ヴォーリズと堀の再生ー近江八幡市

八幡山公園に設置されている豊臣秀次の像
撮影：2011 年 10 月 29 日

豊臣秀次の由来の看板
撮影：2011 年 10 月 29 日

左：近江八幡市の歴史的町並み
撮影：2011 年 10 月 29 日

1585 年(天正 13 年)豊臣秀吉の甥である豊臣秀次が八幡山に城を築いた。その日から近江八幡の歴史は表舞台に立った。京都に近く、日本海からの通り道にあるこの場所で、秀次の楽市楽座などによる商業政策は、のちに近江商人といわれる基礎となっている。現在、近江八幡市は当時作られた八幡堀を中心に町が発展し年間 300 万人の観光客が訪れている。今回は、近世の歴史的な街並みを残し、近代的建造物と融合した近江八幡市を取り上げる。

★ 重要伝統的建築物群保存地区にいたる道のり

16 世紀の後半、豊臣秀次は琵琶湖の東岸に城を築くと同時に、八幡堀を築くが、これは琵琶湖に繋がる運河としても利用された。また、近江地方は東海道、中山道、北国街道と三つの街道が交差する交通の要所となっており、地の利を活かした商業地として発展した。近江八幡は琵琶湖の港町としても栄え、コメや酒、畳表などの地場産物を各地へ売り、各地からは産物を持ち帰り、近江や京都で売るという商法で、近江商人としての地位を築いてきた。また、この地から江戸や大坂に店を構え、流通や金融などに乗り出す商人も多く、日本の主要な場所で、「売り手よし、買い手よし、世間よし」という「三方よし」の商売哲学を実践し、着実に経済の中心に食い込んでいった。現在の高島屋、大丸、西武などのデパート、伊藤忠商事、丸紅などの商社などのルーツをたどると近江商人に行き着く。
また、城下町を中心とした街並みは、現在もほとんど変わってなく、整然とした碁盤の目のような市街地形成がなされ、そこに、伝統的な建物が建ち並んでいる。

左：全長 4,750mの八幡堀の一部
撮影：2011 年 10 月 29 日

南禅寺境内を走る琵琶湖疏水。琵琶湖疏水の完成で琵琶湖から京都までの水運が可能となった。
撮影：2016 年 5 月 16 日

九条山から蹴上の勾配が急なため、傾斜鉄道（インクライン）により船を上下させた。
撮影：2010 年 2 月

1975 年（昭和 50 年）に文化財保護法の改正があり、重要伝統的建造物群保存地区が選定されることになり、全国の城下町、宿場町、門前町などの歴史的な町並みや集落の保存が図られることになった。

選定基準としては、

(1) 伝統的建造物群が全体として意匠的に優秀なもの
(2) 伝統的建造物群及び地割がよく旧態を保持しているもの
(3) 伝統的建造物群及びその周辺の環境が地域的特色を顕著に示しているもの

となっている。

1976 年 9 月 4 日には最初の重要伝統的建造物群保存地区が指定されたが、それは、秋田県角館、長野県妻籠宿、岐阜県白川郷、京都市産寧坂、京都市祇園新橋、萩市堀之内地区、萩市安古地区の７地区で、近江八幡市は選定されていない。

この制度は、市町村が保存条例を定め、それに基づき保存計画を立て、それを国が選定するという仕組みになっているが、近江八幡市が選定されたのは 1991 年（平成 3 年）になってからである。指定地区は広さ 13.1ha、地区内の建物 180 棟、工作物 93 が伝統的建造物となっている。

昭和 30 年代という時代は日本中が戦後の混乱期から抜け出そうと頑張っていた時代だ。そのため、各地で工場の建設や誘致、都市部での人口急増にインフラが間に合わずに、汚水の垂れ流しなど、環境の破壊が相次いでいた。近江八幡市もこの時代に乗り遅れないように企業の誘致や区画整理事業などを進めてきた。

隣接する琵琶湖は約 670ｋ㎡で日本最大の湖として、滋賀県の１／６を占め、流れ出る水は淀川となり大阪湾に至っている。1890 年代に大阪市に近代水道が引かれ、京都では琵琶疎水(1890 年第一疎水、1912 年第二疎水)が完成してからは、京阪神

の水がめとして重要な役割を果たしてきた。しかし、高度成長に伴い、琵琶湖を取り巻く開発により、企業の集積が加速し、琵琶湖の水位低下や合成洗剤による活排水による汚染が問題になってきた。
滋賀県が工場廃水や家庭用排水を規制する滋賀県琵琶湖の富栄養化の防止に関する条例を制定したのは 1979 年になってからである。
琵琶湖に通じる八幡堀も、昔は交通路や生活の場として親しまれてきたが、生活用水の垂れ流しなどで、公害の元凶になるようなありさまで、1970 年代には堆積したヘドロは１．８ｍ、総量 50,000 立方メートルに及んだ。市民の不法投棄などによる掘割の汚染はその後も続き、地元では、堀を埋めて、駐車場や公園などでの改善を署名を添えて陳情した。市も、この計画に賛同し、埋め立てのための国の補助金の獲得に乗り出した。
こうした中、1972 年(昭和 47 年)に近江八幡青年会議所は「堀は埋めた瞬間から後悔が始まる」を合言葉に堀の浚渫と復元を呼びかけた。しかし、一方で市民の声は 1 日も早い改修を望んでおり、保存活動はなかなか進まなかった。
昭和 50 年に青年会議所は「死に甲斐のあるまち」を旗印に新たな運動を展開する。これは、どんな人間でも死ぬ場所は一つしかなく、人が死を迎えるにあたりこのまちで生涯を終えることを後悔しないような町にしようということ。そして実際に、毎週日曜日に会員自らが八幡堀に入り自主的に清掃活動を開始するのである。当初は、市民の賛同を得られる状態ではなかったようだが、めげることなく毎週活動を進めている姿に、少しずつ賛同者も増え、しだいに堀端に集まる人が多くなった。埋め立て計画を進めるため保存に反対していた行政職員も同調し始め、まちの誇りを取り戻す事業として堀を残すということが市民の心に響いてきた。そして、1975 年に滋賀県は国の予算を返上し、改修工事を中止することになる。
こうした経過を経て、近江八幡市では現在、八幡堀を守る会などを中心に清掃活動を進めており、歴史的な街並みに似合った掘割空間が美しく存在している。その後、1980 年には明日の近江八幡を考える会の発足、82 年には水緑都市モデル地区整備事業の指定地区に選定(国土庁)、86 年には八幡堀修景護岸整備を行い、手作り郷土賞を受賞する(建設省)。こうした積み重ねで、1991 年にようやく「近江八幡伝統的建造物群保存地域」として、重要伝統的建造物群保存地区に選定されるのである。現在は、時代劇の映画やテレビの撮影で使われることも多く、昔の風情がそのまま残っている地域となった。

左：浚渫されて水もきれいになっている掘割。
撮影：2011 年 10 月 29 日

右：掘割には観光船も就航している。
撮影：2011 年 10 月 29 日

ヴォーリズの銅像が市内に建てられている。
撮影：2011 年 10 月 29 日

近江兄弟社学園は 1931 年に建てられている。
撮影：2011 年 10 月 29 日

池田町洋風住宅街の案内看板
撮影：2011 年 10 月 29 日

★　ヴォーリズの愛した土地

1905 年(明治 38 年)、当時 25 歳のひとりのアメリカ人が英語教師として、八幡へ赴任してきた。彼の名前はウイリアム・メレル・ヴォーリズ。後に、近江兄弟社の創立者の一人としてメンソレータムを広く日本中に普及させた実業家であり、一方で建築家として 1600 を超える建物を設計した一流の設計家でもある。

彼は YMCA 活動を通じて、プロテスタントの伝道に従事し、「建物の風格は人格と同じで、その外見よりも内面にある」という考え方の持ち主で、設計思想の根底にヒューマニズムがあり、人間味あふれる建築を生み出し、近代住宅建築の基礎を築いた。彼の建築は、関西地方が主流で、現在でも数多くの建物が残っている。神戸女学院、関西学院などの学校や、博多ルーテル教会、軽井沢日本人教会、大阪教会などのキリスト教施設や大阪の大丸百貨店心斎橋店などの商業施設も現存している。しかし、彼の進めたことは、ひとつの建築をつくるということではなく、人間的な「まちづくり」のために、近江兄弟社を起こし、実業家としての地位を固めるとともに、学校や図書館、病院をつくるなど教育や福祉、医療を含め、総合的な「まちづくり」にかかわっていくのである。

現在も、25 棟の作品が近江八幡市には残っているが、学校は「近江兄弟社学園」として存続しており、町の中に溶け込んで、町の発展を支えてきた姿が浮かんでくる。

彼は 1919 年に一柳満喜子と結婚し、1941 年には日本に帰化し「一柳米来留（ひとつやなぎめれる)」と日本名をつけ 1964 年に亡くなるまで、日本を愛し、近江八幡を愛した。

近江八幡で彼の建物を訪ねるだけでも彼の足跡をたどることができる。

JR 近江八幡駅から北方向約２ｋｍのところに旧市街地があり、碁盤目のようにわかりやすい街並みが形成されている。町を歩くと、江戸時代から続く街並みが並び、その中で突然近代建築が見える。それがヴォーリズの設計した建物だ。近世と近代

の日本が融合したような不思議な街並みに出くわすことができる。
ヴォーリズの設計した個人住宅が建ち並ぶ八幡小学校近くの路地(池田町洋風住宅街)に入ると、レンガ塀に囲まれた個人住宅が 4 棟並んでいる。そういえばこの近くに日本で５棟しか現存していない「ホフマン窯」のひとつがあったはずだ。レンガはここで作られたのではないか。他にレンガの建物はこの辺りにもいくつかあるのではと探してみたが、あまりない。八幡堀のほとりにもレンガの塀を見つけることができ、レンガ倉庫をひとつ見つけることができたが、他には見つけられなかった。この旧中川煉瓦製造所ホフマン窯は 1916 年ころに作られたものなので、ヴォーリズは建物には利用していないが、ここで焼かれたレンガは塀などに使われたではないかと思う。

右の 2 点：池田町には多くのヴォーリズの設計した住宅が存在している。そこには、普通に市民が住んで保存活用している。
撮影：2011 年 10 月 29 日

1916 年ごろに作られた旧中川煉瓦製造所のホフマン窯はドイツのホフマンが開発した 24 時間、365 日焼き続けることのできる煉瓦窯だ。
撮影：2011 年 10 月 29 日

旧八幡郵便局は現在ヴォーリズの作品の保存再生を推進する「一粒の会」拠点として使われている。ここに行くと、ヴォーリズのことも詳しく知ることができる。こうした活動が地域を支えていることは大切なことだ。

市内にある煉瓦建造物
撮影：2011 年 10 月 29 日

★ 「ボーダレス･アートミュージアムＮＯ-ＭＡ」はアートの価値観を変える

永原町という京都に繋がる街道の地域は、江戸時代を感じさせる町屋の街並みが続いている地域だが、ここに空き家を活用したアートスペース「ボーダレス･アートミュージアムＮＯ-ＭＡ」がある。築 70 年を越える空き家になっていた町屋をアート、福祉関係者、地元の方々が一緒になって再生し、2004 年 6 月にオープンしている。ボーダレスとは境界や国境を越えるという意味で、「福祉と文化との交差」「アートとまちづくりの協働」「障害の有無」という境目を越えた活動を目指している。ここで展示している作品は、障害のある人の作品と現代アートの作品が競争するように並べられることが多い。自由で奔放な現代アートの作品に対して、われわれの感性を打ち砕くような感性豊かな障害者の作品が並んでいる。どちらが優れているとかという常識的な価値観を吹っ飛ばすような衝撃を受ける作品が多い。私が訪ね

旧八幡郵便局は 1921 年築。
撮影：2011 年 10 月 29 日

たときは「フィギュアたちの人生」(11 月 13 日まで)という展覧会を行っていたが、心にズンと響く作品が数多く並んでいる。

左：伝統的建造物群保存地区に指定されている永原町通り
撮影：2011 年 10 月 29 日

右：永原町通りにある「ボーダレス･アートミュージアムＮＯ-ＭＡ」
撮影：2011 年 10 月 29 日

展覧会「フィギュアたちの人生」から、石野敬祐作「女の子」
撮影：2011 年 10 月 29 日

デハラ　ユキノリ作「サトシ君」「モーリン」など）
撮影：2011 年 10 月 29 日

横浜の「アートかれん」で活動する川戸由紀さんの作品
撮影：2016 年 5 月 26 日

ヨーロッパでは「アール・ブリュット(生の芸術)」という芸術分野が確立されていて、スイス・ローザンヌにあるアール・ブリュット美術館では、2008 年に日本人作家の展覧会が開催され評判を呼んだ。また、同美術館には何人かの日本人作家の作品も所蔵されている。昨年はパリの市立アル・サン・ピエール美術館で 10 ヶ月に渡り「アール・ブリュット・ジャポネ」展が開催され、その国内の巡回展が埼玉県立近代美術館や新潟市美術館などで開催され、来年度も国内巡回展が引き続き行われる予定だ。

障害者のアート作品は施設で作られることも多く、作品が地域のバザーなどで売られるなど、作品の価値が定まらずにきた。また、施設の指導者が障害者の個性にあわせてひとりひとりの製作指導にあたっている。そのため、作品の原材料などは、基本的には施設が負担しているため、作品を販売する際に、作家と施設の著作権をどのように扱うかという問題も生じる。

現在、障害者アートの日本での活動を支えている団体である「エイブル・アート・ジャパン」では、こうした問題に長年取り組んでおり、少しずつ障害者のアートが知られるようになってきている。

私の家にも、障害者のアート作品が何点かあるが、心の奥底を癒してくれる作品が多く、独りよがりの作品が多い現代アートとはまったく違った側面を持っている。アートに関する見方が変わるくらいの衝撃を受ける。

掘割の再生やボーダレス･アートミュージアムＮＯ-ＭＡの誕生など、こうした動きが近江八幡で市民の賛同を受けながら進められてきたことは、ヴォーリズという人物がこのまちに残した有形無形の業績や考えたかの積み重ねの賜物と思われる。

町の人が進んで、掘割の清掃にいそしみ、掘割の保存活用を推進してきたこと、様々な人がクリエイティブな活動を進めてきたことが評価され、平成１9 年度には沖縄

市、金沢市、横浜市と一緒に文化庁長官表彰「文化芸術創造都市部門」を受賞している。
近江八幡を訪ねて、まちづくりは歴史や風土を大切にして、自分のいる場所で自分のできることを積み重ねていくことが重要であることを改めて認識した。誰かが声を上げ、行動しないと掘割も残らない。空き家となった町屋の活用もされない。そういう声を上げる誰かに自分がなること、一緒に地域で活動すること。そうしたことは、身近にいくつも転がっている。創造的な活動をすることが、自分を高め、地域を活性化し、日本を元気にする道だと思う。

５）コンパクトシティは地方を救うか？
ー富山市

子供のころの記憶の富山は「越中富山の薬売り」。富山から薬売りが自宅に来て、家にある薬箱を開け、使った分を交換し、その時に紙風船などをもらった記憶がある。特に熊胆（くまのい）という薬、小さいころに舐めてみて、こんなに苦いものがこの世の中にあるのかと驚いたものだ。こうした記憶の富山市は現在、コンパクトシティを目指し、LRT（Light rail transit）を導入して成功をおさめていると聞いて、さっそく、冬の富山に旅立った。

富山駅前にある薬売りの銅像
撮影：2014 年 1 月 28 日

★大伴家持の時代から太平洋戦争の空爆

大伴家持が万葉集を編纂したことは有名だが、彼は 29 歳の時、746 年(天平 18 年)に越中の国司(越中守)に任ぜられ、約 5 年にわたり滞在し、その時に、先人たちの残した歌を編纂し、自らも多くの歌を詠み、それが万葉集として結実したといわれている。

富山の名薬「反魂丹」は現在でも池田屋安兵衛商店で売っている
撮影：2014 年 1 月 27 日

武家社会が台頭してきたころは、一向一揆や上杉・織田の勢力争いなど多くの戦いが繰り広げられたが、1583 年に織田側の佐々成政により、越中がほぼ統一されている。その後、加賀藩の領地となったが、1639 年に富山藩が分藩され、初代藩主に前田利次がなっている。江戸時代には、農業や売薬業など地域の特徴ある産業を起こし、伏木港や岩瀬港は北前船の中継地として、昆布や酒、米などの交易で栄えた。明治時代の 1873 年に富山城は廃城となり、その後取り壊された。

1871 年廃藩置県により富山藩領は富山県になったが、すぐに新川郡などを含めた新川県に改められ、県庁は魚津に置かれた。翌年には越中全域が新川県になり県庁が富山に移った。その後 76 年に石川県に統合（編入）されたが、分県運動により 83 年に富山県が誕生している。89 年に市制・町村制が施行され、富山町は富山市になっている。

富山城を模した富山市郷土博物館
撮影：2014 年 1 月 27 日

1945 年 8 月 1 日から 2 日にかけての深夜、B29、174 機による焼夷弾を中心とする空爆で、市街地の 99.5%に及ぶ地域が焼失、2700 人を超す死者、負傷者 7,900 人、焼失家屋 24,914 戸と地方都市では原爆以外で最大の被害だった。1940 年の富山市の人口は約 13 万人、疎開等で 45 年には 10 万人に減っていたが、当時の富山県の一世帯当たりの人口は 5 人程度だったことを考えると、ほとんどの家屋、人が被災していることになる。

戦後は、いち早く戦災復興事業に取り組み、45 年には駅前地区と中心市街地の総曲輪（そうがわ）地区で約 400ha の復興を開始し、47 年には富山戦災復興土地区画整

理事業として事業面積 554.1ha に着工、53 年には駅ビルが竣工している。
戦災復興事業の完了を記念した富山産業大博覧会(1954 年)では、富山城の城郭を模した富山市郷土博物館が作られ、郷土の歴史や文化を紹介する場となっている。2004 年に戦災復興期を代表する建物として国の登録有形文化財に登録された。
産業誘致では、1964 年に富山高岡新産業都市の指定を受け、工業化への道を進み、84 年に高岡市などと一緒に富山テクノポリス指定を受け、中心的な役割を担う北陸最大の内陸型工業団地（富山八尾中核工業団地）を開発し、現在、日立国際電気や富山富士通など先端技術産業を中心とした 35 社が集積している。

★公共交通機関が発達した富山

富山には国鉄、私鉄が入り乱れて多くの路線があった。明治 14 年頃には鉄道計画があったが、資金不足などでとん挫、「鉄道敷設法」に基づく官設の北陸線延長（高岡―富山間）により、ようやく富山駅が開業し(1899 年－明治 32 年)、東海道線の米原駅と結ばれた。北陸線（米原―直江津間）の全線開通は 1913 年 4 月 1 日だ。
同じ 13 年に富山電気軌道が開設、その後、富山軽便鉄道、富山県営鉄道、富岩鉄道、越中電気軌道が開設されているが、主には鉱山からの貨物輸送、電源開発、観光客誘致などが目的で、営業成績が上がらず、富山電気軌道は 1920 年に富山市に譲渡され、富山市営軌道に改められた。34 年には高山本線(岐阜―富山間)が全線開通し、中京との接続が整った。41 年に陸上交通事業法により私鉄は統廃合され、43 年に新会社富山地方鉄道（社長：佐伯宗義）が発足し、県内の私鉄が 1 社にまとまった。(富岩鉄道線は大陸との交易、海上輸送関係で国に買収された）こうした鉄道網が都市化を進め、産業の振興や人々の生活を支えてきた。富山市は、北は富山湾、東に立山連峰、北アルプス、南には飛騨山脈と豊かな自然に囲まれるため、宇奈月温泉、黒部峡谷、立山、近隣の高山など風光明媚な観光地、電源開発地に恵まれ、そこへのアクセスが、これだけの鉄道網を生んだと考えられる。

左：昭和 11 年(1936 年)当時の富山電気鉄道の鉄道図
撮影：2014 年 1 月 27 日

右：現在の富山地方鉄道の路線図
撮影：2014 年 1 月 27 日

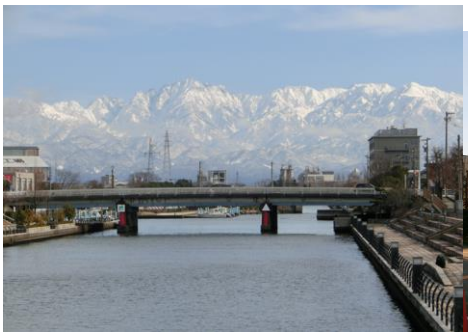
神通川は富山城のすぐ脇を通っていた。蛇行部分を埋め立てた土地に県庁などが建っている。
撮影：2014 年 1 月 27 日

富岩運河は、現在、富岩運河環水公園となっている。
撮影：2014 年 1 月 27 日

左：立山連峰はすぐ近くだが冬の間は晴れ間が少なく、なかなか見ることができないと聞いた。
撮影：2014 年 1 月 27 日

右：1935 年に建築された富山県庁（設計：大熊喜邦）。富山市内は戦災でほとんど焼かれ近代建築は数少ない
撮影：2014 年 1 月 27 日

富山平野を流れる神通川は、かつては、蛇行していて何回もの洪水を起こした。明治時代に工事を行い、流れを直線的に変え、その後、蛇行部分を埋立て、同時に東岩瀬港から富山駅北までの富岩運河を完成させたのが 1935 年だ。埋立地には県庁、ＮＨＫ会館、富山警察署などが建てられ、そこだけが空襲の際に焼失を免れている。神通川で忘れられないのが、イタイイタイ病。1893 年（明治 26 年）に三井鉱業が鉛・亜鉛などを採掘し始め、その排滓や排水による鉱毒が原因で、1920 年には鉱毒被害が確認されている。これがカドミウム中毒による公害病として認定されたのは 1968 年（昭和 43 年）、被害が確認されてから約 50 年の歳月を要した。そして、原因企業の三井金属が被害者住民団体と公害発生を謝罪する項目を盛り込んだ合意書を交わし、60 万円の賠償金を払うことになったのは 2013 年で、発生から 100 年以上の歳月を要している。



★富山市の目指すコンパクトシティ

2005 年 4 月 1 日、富山市・八尾町・大沢野町・大山町・婦中町・山田村・細入村が合併したが、旧富山市への編入合併ではなく、面積 1241.85k ㎡、人口約 42 万人の新しい「富山市」が誕生した。

2002 年に旧富山市の市長に森雅志氏が当選し、2005 年の合併による市長選でも当選。森市長になって市役所の内部が大きく変わっていくことになる。市長は自動車に頼った社会では、超高齢化社会の課題の解決や慢性的な地方都市の財源不足から市の経営が成り立たないと考え、コンパクトシティを提唱した。

コンパクトシティ戦略をとる大きな理由は人口問題だ。大都市集中によって、地方都市の人口は今後ますます減少する。また、日本全体の高齢化率は 2055 年には 40%を超える。こうなると今までの成長への期待やそれに基づく制度はすべて破綻することが見えてきている。ある意味ではパラダイムシフトを余儀なくされ、無駄な公共事業をいかになくしていくのか、また、市民サービスを維持していくためにはどうしたら良いのかが問われてくる。

富山市は、富山平野が広く、人口が分散しているため、自動車の 1 世帯当たりの保有率は福井県に次いで全国 2 位（2012 年で 1.732 台、最下位は東京で 0.481 台）で、

道路整備等に多くのお金がかかっている。冬は除雪費の負担が大きい。
道路整備なども質的改良は重要だが、ポイントを明確にして道路を作っていかないと無駄だし、財政は破たんする。富山市内には 2m幅以上の橋が約 2200 か所あり、これの補修費用だけでも莫大になる。高齢化率は現在約 27%だが、今後、当然高くなっていく。また、将来的には人口密度は都心部でも 40 人／ｈａを下回るようになる。これを放置しておくと、都市機能は崩壊していく。
一方、郊外に住むデメリットも明確になっている。高齢になると運転が難しく、病院も遠くて行くことができなくなる。訪問医療は遠隔地になると回数も限られる。点在して住むと、人との交流が少なくなる。こうしたデメリットを解消するには、コンパクトな地域に集中して居住し、効率を良くして、市民の生活の安定、安心を確保していくことが必要となる。
富山市は、7 割が森林、2 割が市街地、1 割は農地。農地の 98%は水田で、兼業農家が多い。富山全体の野菜出荷額は年間 40 億円程度と他県に比べて少ない。水が豊かで、水力発電開発を昔から進め、その電力を頼りに企業の工場が進出し、そこに兼業の農家が働きに行く場合も多い。農業＋企業という就職構図が当たり前で女性の就業率も高い。製造業は富山市で約 1 兆 4000 億円の出荷価格（粗付加価値額含む）。そのうち約 4000 億円は薬関係。薬を頂点に、そのバックアップのパッケージやビン、缶などの産業が発達した。そのため、工業デザインも盛んだ。こうした背景で、郊外地区でも農業振興や緑地の保全を進めているが、まずは都心を快適、魅力的にするということを重点的に進めている。

右：富山市観光案内図を見ると、立山、黒部など市街地以外が非常に大きい。
撮影：2014 年 1 月 27 日

★ＬＲＴの事業化がもたらすもの

旧富山線の鉄道区間を走るポートラム
撮影：2014 年 1 月 27 日

1.1ｋｍの区間は自動車と共存する軌道部分を走る。
撮影：2014 年 1 月 27 日

富山港線を LRT に変えることは市長が発案し、自ら 2−3 年で 100 回以上のタウンミーティングで説明した。これがコンパクトシティの最初の具体的な事業だった。LRT 開業以前の富山港線は、マイカー利用により、1 日当たり 6,300 人(1988 年)の利用者が 2004 年には約 3,100 人と半減していた。また、一日の運行本数も 19 往復、21 時には終電という状態で、利用者はますます減っていった。こうした中で、公共交通網の整備を計画的に進めるために、2003 年には市議会に対して富山港線を路面電車化する検討を開始する旨を発表。2004 年には予算が承認され、地元 15 社が出資し、市は資本金の 50%出資の第三セクター「富山ライトレール株式会社」を設立している。同年、ＪＲ西日本との基本協定、鉄道事業の認可を経て、2005 年に工事着工し、2006 年 4 月 29 日には開業している。それも、将来、南側の路面電車との連結を行うために、富山駅近辺では道路併用軌道に変更し、ルートも変えている。市長が初当選したのが 2002 年だから、ものすごいスピードで LRT「ポートラム」が誕生した。ポートラムは 7.6km の路線（鉄道区間が 6.5km、軌道部分が 1.1km）で、途中駅 2 か所からはフィーダーバス(支線バス)を走らせて、駅勢力圏を拡大している。

右：ポートラム路線図、蓮町と岩瀬浜の 2 駅からフィーダーバスが出ている。
撮影：2014 年 1 月 27 日

運行間隔も富山港線の 30−60 分だったものを平日で 15 分、ラッシュ時に 10 分にし、平日の乗降客数 4,815 人／日、(以前の 2.1 倍)、休日 3,645 人／日(以前の 3.5 倍)となり、高齢者の利用者が増えるとともに、自動車やバスからの変更客が 24%、新規の客が 20%と新しい客層も開拓した。

一方、利用者が便利なようにソフト開発も進め、ＩＣカードの導入で、料金 200 円均一のところＩＣカード利用の場合は 170 円で乗れるようにしている。また一日 4 回以上乗った場合 4 回目以降は無料にするなどを行った結果、ＩＣカード利用率はポートラムで 85%、セントラムで 57%となっている（2013 年 12 月現在）また、富山大の学生証にＩＣチップを導入し、利用の促進を測ることや、65 歳以上の人が午

前 9 時から午後 5 時までの間に市内全域のどこからでも中心市街地にでかける場合は、バス料金を一律 100 円の割引料金とする「おでかけ定期」など市民サービスを充実させている。ちょっと驚くが、花束を持ってトラムに乗る人は無料にするなど、ユニークな試みも実施している。

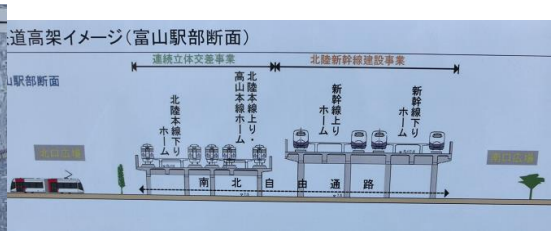
★路面電車の循環化と総合的な交通政策

ポートラムは駅北部の岩瀬地区と結ぶ富山港線を利用した公共交通機関だが、中心市街地は富山駅の南部で、県庁や市役所、繁華街が集中している。ここには富山大学方面と富山高校方面（南富山駅前）の 2 路線の路面電車が残っていて学生利用が多い。この路面電車を利用しやすくし、将来は北部のポートラムとつなげるため、既存の路面電車を活用し市内電車循環化を進め、「セントラム」と呼ばれる新しい路線を 2009 年に開業した。路面電車の H22 の乗客者数は 11,022 人／日、H24 には 11,564 人と少しずつ増えている。そして、2015 年春に迫った北陸新幹線の開業に併せて、富山駅の在来線を立体化し新幹線のホームをつくり、新幹線開通の 3 年後にはすべての線路を高架化し、高架下にポートラムとセントラムを結ぶ路線を開通させることになる。

市内電車（セントラム）系統案内図
撮影：2014 年 1 月 27 日

LRT の新設や路線の新設を行う際には、交通事業者からの反対が強く、様々な困難が生じることが多い。富山地方鉄道（地鉄）は、地方鉄道が抱える慢性的な赤字という悩みを持つが、循環線（軌道と一部の電車は市の所有）の運営を行うことなども決まり、強い反対はしなかった。地鉄は、魅力創出のために「レトロ電車」を走らせるなど積極的に路面電車の運行を進めている。また、昨年には立山連峰など富山の雄大な自然を満喫できる 2 階建て「ダブルデッカー車」を京阪電鉄から買い取り導入するなど、沿線の魅力を十分に引き出す事業を進めている。

これと並行して、市は既存のＪＲ高山線の活性化のために高山本線活性化社会実験を行い、富山イノベーションパークの隣接地に婦中鵜坂駅（ふちゅううさかえき）を臨時駅として設置し、需要を掘り起こすなどを行い、2014 年春以降の常設化を決めている。こうした総合的な交通政策を進め、コンパクトシティを支える事業を進めてきた。



左：富山駅近辺の平面図
撮影：2014 年 1 月 27 日

右：高架事業の概要図
撮影：2014 年 1 月 27 日

右：富山市内の路線図と計画（富山市提供）

富山駅周辺事業完成イメージ図
撮影：2014 年 1 月 27 日

市内を走るレトロ電車は 1 月 27 日から運行を開始していて、その初日に乗ることができた。
撮影：2014 年 1 月 27 日

レトロ電車の車内には机もあり、読書やパソコン利用ができる。
撮影：2014 年 1 月 27 日

★「総曲輪（そうがわ）フォリオ」と「グランドプラザ」

富山市は 2007 年 2 月に、日本で最初の中心市街地活性化基本計画の国の認定を受けた。その内容は「公共交通の利便性の向上」「にぎわい拠点の創出」「まちなか居住の推進」の 3 つを柱にしている。第 1 期の終了を受け、第 2 期計画は 2012 年 3 月には認定を受け、今まで行ってきた市街地整備などの公共投資を呼び水に民間の投資意欲を促すことで中心市街地の活性化を目指すこととしている。また、ソフト事業等については民間事業者，ＮＰＯ、大学、市民団体などが行政と連携・協働して進め、行政がバックアップすることで「市民が主役」の体制、仕組みづくりを行うこととしている。

富山の中心市街地は、県庁や市役所に近い総曲輪通り商店街と市電通りを挟んだ中央通り商店街付近で、かつては「富山西武」などがあり、賑わっていた。30 年前の総曲輪通りは、多くの市民がショッピングを楽しみ、「総ブラ」とまで呼ばれていた。

その後は富山駅前に開発が移り、1987 年に「マリエとやま」、92 年に「ＣＩＣ」などの複合商業施設ができ、市内婦中地区には 2000 年にシネコンを併設した「ファボーレ」、2002 年には高岡市に「イオン高岡」がオープンするなど、中心市街地を取り巻く環境は厳しくなった。中央通りの「長崎屋富山店」、「無印良品」は 2002

人通りが少ない中央通り商店街
撮影：2014 年 1 月 27 日

富山駅前には「マリエとやま」と「電鉄富山駅ビル　エスタ」
撮影：2014 年 1 月 27 日

駅前のＣＩＣには観光物産「いきいき館」や図書館などが入居している
撮影：2014 年 1 月 27 日

年に閉店、2003 年には「マクドナルド」も撤退している。2006 年には総曲輪通りの「富山西武」が撤退し繁華街としてのポテンシャルも落ちて来ていた。

中心市街地の活性化を進めるために、富山市は総曲輪地区の隣接する二つの再開発事業を進め、2007 年に「総曲輪フォリオ」と「まちなか賑わい広場(愛称：グランドプラザ)」をオープンさせた。再開発ビルの片方は駐車場、片方は商業施設「総曲輪フェリオ」(富山大和がキーテナント)で、その中間にグランドプラザをつくった。プラザはフォリオ側のビルが５ｍセットバック、市道もこの部分によせて空間・広場をつくったため、権利者の一部は民間だがほとんどは市有地だ。グランドプラザは、長さ 65m 幅 21m 高さ 19m の屋根付き全天候型広場で、全体がガラスの建物になっている。

グランドプラザにはふだんはカフェテーブルや車止め植栽などが置かれ、イベントが行われない時に、自転車の往来を防ぐとともに、ゆったりとした休憩スペースを提供している。むろんカフェテーブルなどはイベント時には動かすことができる。このプラザには地下収納庫があり、アップダウンし、ステージとしても利用できる。地下には自転車駐輪場も用意されている。

グランドプラザの活用で力を入れたことは、週末のイベント開催を徹底して進めることだ。オープンから 2 年 7 か月は市の直営施設として管理運営されていたが、2010 年からは指定管理者制度により、第 3 セクターの「株式会社まちづくりとやま」が運営している。条例では、目的は「中心市街地において、市民の交流を促進し、賑わいを創出するため、富山市まちなか賑わい広場を設置する」であり、料金も土日祝日に一日全面使用する場合 20 万円という料金設定がされた。

グランドプラザは完成前から地元と市役所が活用員会をつくり、定期的に会合を開き利用について議論してきたため、完成後の運営もスムーズに進んできた。特に開業時にはオープニングキャンペーンを実施し、一定期間料金を徴取せず、テレビ、新聞などのメディアにイベント開催を提案するなど、多くのイベントを誘致した。それがメディアで配信され市民にも認知され、今でも毎週末に様々なイベントが実施されている。

キーパーソンの一人、山下裕子さんが出版した「にぎわいの場　富山グランドプラザ」(学芸出版社) には、当時のことが具合的に記されているが、そこで特徴的だったのが行政とのタッグマッチを行う中での信頼感だ。官民の協働事業では、ともすれば官僚主義的な対応や保守的な管理運営を求められるが、何回もの議論により様々な軋轢を乗り越え、お互いが信頼感を持って事業を進めることができ、それが成功につながったと思われる。

グランドプラザがオープンした 2 年後には市内電車環状線「セントラム」が開業し、「グランドプラザ前駅」が開設されるなど、市は中心市街地の活性化を様々な面か

らバックアップしている。現在、もう一つ進めているのが、総曲輪地区に隣接する西町南地区の再開発事業で、ここには市立図書館とガラス美術館が入ることになっている。これらができることにより、また異なった層の集客が予想される。
一方、富山市では、郊外から中心部にきてもらうことだけではなく、都心部に居住してもらう政策も積極的に進めている。中心地に住んでもらうために、マンション事業者には１戸 100 万円、取得者には 50 万円の補助金をだした。駅近くに住宅を建てる場合も補助金がでるし、まちなかで賃貸アパートを借りる人には１万円／月（３年間）の補助金をだして、まちなか居住を進めている。

左：総曲輪通り商店街のアーケード
撮影：2014 年 1 月 27 日

右：全面ガラス張りのグランドプラザにはカフェテーブルが並べられている。
撮影：2014 年 1 月 27 日

グランドプラザの地下駐輪場は直接、富山大和に入店できるようになっている。
撮影：2014 年 1 月 27 日

総曲輪商店街にある「地場もん屋総本店」には富山産品が並んでいる
撮影：2014 年 1 月 27 日

富山大和跡地の西町南地区の再開発事業は、2015 年に完成した。
撮影：2016 年 2 月 25 日

★市内散策、豊富な酒と肴で舌鼓
最初に一日乗車券を買って LRT で岩瀬地区に向かう。富山駅前からしばらくは自動車と一緒に走る軌道区間になっているが、約 1km 過ぎると、専用の線路上を走る。岩瀬口で下車。ここには富山港線時代の東岩瀬駅が残っている。この岩瀬地区は北前船で栄えた町で、北前船廻船問屋「森家」や「満寿泉」で有名な造り酒屋「舛田酒造店」がある。北前船の時代から北海道との繋がりが深かったためか、昆布の消費量は富山県が日本一だ。
富山駅南部側の中心市街地周辺は路面電車が 5 分に 1 本は走っていて、とても便利だ。月曜日に訪れたこともあり、総曲輪通り商店街の「地場もん屋総本店」なども人出は少なく、グランドプラザは数人がカフェテーブルで懇談やお茶を飲んでいる姿くらいしか見ることができなかったが、週末になると多くの賑わうと聞いた。また、中央通り商店街は、空き店舗もあり、人出は極端に少なかった。筆者が面白いと感じたのが、千石町通り商店街だ。昆布やお茶の老舗に混じって、アートスペースや陶磁器展などがあり、若者が起業したりするにはぴったりの場所ではないかと感じた。
総曲輪地域の隣接地に「桜木町」という地域があるが、ここが富山随一の歓楽街で、居酒屋や料亭、風俗店など様々な店が軒を連ねている。桜木町は富山藩 10 代藩主の前田利保が隠居所として建てた千歳御殿のあった場所で、庭園にあった桜並木が

名前の由来とのこと。桜木町のはずれにある居酒屋で富山市の職員と一緒に懇談。富山は水が豊かで立山連峰の伏流水なども豊富で酒も美味しい。昆布締めの刺身や「げんげ」や「白エビ」など、関東ではなじみのない肴をつまみに「勝駒」「風の盆」「成政」などを呑んだ。残念なのは、美味しい魚介類を実家に送ろうと思ったが、金沢の近江町市場のような場所がなく魚屋さんが見つからなかったことだ。

右：岩瀬地区観光案内図
撮影：2014 年 1 月 27 日

左：東岩瀬駅は 1924 年富岩鉄道「越中岩瀬駅」として開業した。現在は休憩所として活用されている。
撮影：2014 年 1 月 27 日

右：北前船廻船問屋「森家」
撮影：2016 年 2 月 25 日

★行政のリーダーシップと市民の力

富山市が進めるコンパクトシティ。その成果は徐々に上がってきている。特に森市長のリーダーシップや先見性が市職員全体に行きわたっている。コンパクトシティを政策部局や都市整備部局だけが進めるのではなく、教育委員会では、魅力的な小学校を作り、そこに通いたいから都心部に引っ越そうという気運を高めること、街なかに健康福祉施設をつくるなど、街なかにインセンティブを多く造りだす事業を進めている。全庁一体となって進めている姿は、目標を明確にしているため市民に

もわかりやすいし、職員も仕事がしやすいのではと思う。
しかし、こうした行政のリーダーシップに対して、「市民」の力がまだ充分には発揮されていないのではという気もした。行政主導で素晴らしい政策を進めているためか、富山市民は行政主導については、あまり注文をつけないと聞いた。というよりも役所がやるのが当たり前という風潮なのかもしれない。もっと市民が前に出て、役所が考えること以上のことを進めてもよいのではという印象を受けた。
特に若者の活動の場はまだまだ不十分だ。富山大や富山国際大などもあるが、金沢に比べると大学が少ない。高校生はかなりの確率で東京、関西、金沢などに行ってしまう。全体的に大学生が少ないことも一因かもしれないが、若者の人口層が５％くらい減少してしまう。むろん、東京などで働いている 30 代前後の若者がリターンしてくることも多くなっており、高校生の就職率も高いので少しずつは定着しているとは思う。また、若者のイベントへの参加などは積極的に推進し、商店街との連携では「株式会社まちづくりとやま」（ＴＭＯ）が頑張っているが、若者が起業したりする風潮はなかなか見えなかった。
コンパクトシティの最終的な目的は、人と人の交流を促進して、緊密な関係性をはぐくむことなのではないかと思う。それは昔から住んでいる人、他所の土地から来る人、老若男女、様々な人が価値観を共有して、活き活きと暮らすことにほかならない。行政が推進することを受け止め、次のステップに繋げるのは市民である。その主役が市民になって初めて、コンパクトシティが本格的に機能し始めるのではないだろうか。
富山の夜は、酒も肴も美味く楽しい会話に満ちていた。2015 年春に北陸新幹線ができると東京から富山まで 2 時間 7 分。来年は新幹線で訪れ、富山の魅力、楽しい時間をもう一度味わいたい。

千石町通り商店街の入口には「千石モール」の大きなアーチがある。
撮影：2014 年 1 月 27 日

桜木町地区の案内板
撮影：2016 年 2 月 25 日

夜の桜木町界隈
撮影：2016 年 2 月 25 日

居酒屋には富山の豊富な酒が並んでいる
撮影：2016 年 2 月 25 日

「仲原正治のまちある記―個性あるまちづくり　ムラおこし編」

著者：仲原正治
発行：2016 年 9 月
「仲原正治のまちある記」は日経ＢＰ社「ケンプラッツ」の記事を加筆・訂正したものです。この文章及び写真（提供写真を除く）については、出典さえ明らかにしていただければ「著作権フリー」です。

仲原正治（なかはら　まさはる）略歴
㈱ＭＺarts クリエイティブ・ディレクター(陶磁器・現代アートギャラリー)
1949 年東京生まれ。　1974 年東北大学法学部卒業。
文化芸術によるまちづくり及びクリエイティブシティ政策の専門家。
2011 年 4 月から 2015 年 12 月まで、日経ＢＰ社の総合サイト「ケンプラッツ」に「まちある記」を連載。全国の中心市街地、東日本大震災の被災地のレポートなど、特徴あるまちづくりを紹介している。
主な著書：「横浜市創造都市事業本部 2586 日の戦い」（インターネット出版）。
現在、ＮＰＯ法人黄金町エリアマネジメントセンター理事、赤煉瓦ネットワーク通信員。